

子どもの貧困対策における本学学生のボランティア活動

—平塚市の学習支援事業に係る活動—

石井 悦夫

1 はじめに

「この学習会に通うのはひとり親、特に母子家庭の子どもが多く、年収120万円で3人暮らしの家庭もあります。収入の多くはアパート代に消え、食費の工面も大変。女性の賃金単価が低い現状では、二つ三つとパートを掛け持ちせざるを得ず、子どもに目を配るのが物理的に難しいのが実情です」。

（毎日新聞2017年7月13日 東京夕刊）

都内で学習支援を行っているNPO法人理事長の言葉である。

平塚市も子どもの貧困対策として『**子ども健全育成推進事業（通称：学習サポート）**』を重要施策として事業実施している。コーディネーターとして運営を任されており、上記のような状況も耳に入る。

5年目を迎えた平塚市の学習支援について初年度から関わっていることもあり実施状況について報告したい。

厚生労働省の『国民生活基礎調査の概況』によると、平成27年の貧困線（等価可処分所得いわゆる手取り収入の中央値の半分）は122万円で、これに満たない世帯（相対的貧困）における「子どもの貧困率」（17歳以下）は13.9%であった。平成24年の16.3%から2.4ポイント減となり、6人に1人が7人に1人となったが貧困線の額は変わっていない。

いわゆる生活困窮状態の世帯が増える中で、

平塚市教育委員会が就学援助している各学年の要保護家庭（生活保護家庭）数は毎年20軒台である。要保護家庭に近い準要保護家庭数はこの約10倍となっており、義務教育を受けている家庭の2割弱が援助の状況にある。

全国の多くの自治体でも子どもたちの実際の生活の困窮度がどの程度なのか、どのような生活支援が必要かまで把握が進んでいない現状があり、見える化に取り組み報告のある自治体は少ない。

当市「学習サポート」においても、対応すべき対象生徒をどのように周知と実施に結びつけたらよいのかは悩みどころであり、その中での実施ではあるが、この事業は市の担当課の努力もあり、今年度は、支援対象枠をさらに広げて事業展開をしている。

他地域では教員OBで指導組織としている場合が少なからずあるが、本市におけるこの事業の学習指導は全て学生ボランティア（神大生多数）が担っており、その活躍はたのしい。

2 「子どもの貧困対策の推進に関する法律」と「平塚市学習支援事業」の関連

平成25年5月に「子どもの貧困対策の推進に関する法律」・「生活困窮者自立支援法」が国会に提出され、それぞれ6月・12月に成立した。

「子どもの貧困対策の推進に関する法律」の第十条には就学の援助、学資の援助、学習の支援等のための施策を講ずることが示された。

第八条に示された「子どもの貧困対策に関する大綱」は翌年策定され、貧困の世代間連鎖の解消、学校教育による学力保障、学校と福祉関連機関との連携、教育の機会均等の保障のため教育費負担の軽減が織り込まれている。

「生活困窮者自立支援法」は、6つの事業を柱にしている。その中に「生活困窮世帯の子どもの学習支援」があり、子どもの明るい未来をサポートすることが示され、

- ① 子どもの学習支援
- ② 日常的な生活習慣
- ③ 居場所づくり
- ④ 進学に関する支援
- ⑤ 高校中退防止に関する支援

等、子どもと保護者の双方に必要な支援を進めようとするものであり学習支援対策のポイントとしている。実施に要する費用については、市等が予算化をと示されている。

厚生労働省調査における市等の実施率は、平成27年が33%だったが、平成28年は47%に増えている。神奈川県は80%で全国7番目である。25%未満には島根県5%、岐阜県9%、和歌山県10%、他8県があり実施にバラツキが見られる。

平塚市は平成25年度から開設し上記①～④を進めている。

なお、この法律は厚生労働省として初めて対象者の基準を作らない法令としたもので、人が人を支えていくための制度として地域の実態を基に運用されるべきと聞いている。

3 平塚市子ども健全育成推進事業（学習サポート）の運営内容

(1) 目的

「学習サポート」は、生徒が希望する高等学校等への進路が達成できるよう学習等の支援活動することを事業目的としている。

(2) 運営

厚生労働省調査によると自治体からの委託

運営が74%で、NPO法人が受けていることが多い。平塚市も委託方式である。

市の意向を受けて実施しているため、実施要領には「実施主体は平塚市である。」とし（他県の実施要領を参考）、公的機関が主催しているとの認識にもつながり、生徒・保護者からは信頼感を持って受け入れられている。

コーディネーターがまとめ、**学習指導員（全て学生ボランティア）**が指導に当たっている。

具体的には次のとおりである。

- ① 生徒一人一人に応じた学習支援活動（数学を中心に指導）が中心的推進事業
- ② 学習の合間に休憩時間を10～15分設けているが、学習指導員が生徒とのコミュニケーションを活発にさせることで生徒の精神的な落ち着きが期待できる。学校での悩みごとなどを聞き、学習指導員からコーディネーターが報告を受けて教育相談等も行っている。重要な位置づけになってきている。
- ③ “持ち帰りノート”は、学習指導員と相談しながら次回までの家庭学習等を生徒に記載させ、日常的な学習の習慣化が図れるようにしている。
- ④ 保護者・生徒本人の了承を得て教育委員会・学校・家庭・諸機関との連携を図り、生徒がよりよい日常生活習慣を身に付けていけるように体制を構築し続けている。

(3) 対象生徒

市内在住の生活保護受給世帯を含む生活困窮世帯の中学生を対象

(4) 具体的な運営内容

- ① 生徒の募集
市の担当課である平塚市生活福祉課が行う。対象は中学校2年生と3年生。
- ② 実施承諾のための面談

コーディネーター・市担当者は、保護者・生徒への運営内容の説明や生徒の状況等の聞き取りを経て、保護者からの申請書を受けて生徒の参加を決定している。

参加申請書にある了承事項

- (1)この事業を効果的に進めるために、学校・市教育委員会等と連携したり、子どもの進路希望や学習成績等の個人情報について必要があれば共有化することについて了承します。
- (2)生徒一人一人への学習等の支援が事業目的であることから本事業以外での生徒間交流は禁止していることについて承諾し、参加生徒の情報は他に漏らしません。
- (3)休むときは、当日の夕方に担当主任へ連絡します。

(1)は、生徒の通信票の成績を教えていただくこととなる。

(2)の「交流禁止・参加生徒の情報を漏らさないこと」については、家庭の経済状況のこともあるためホッとした表情をする保護者が多い。

③ 「学習サポート」実施内容

- ア 実施時間 19:00～20:45
学校の部活動、その他配慮すべきことを勘案して適切に時間調整している。
- イ 実施日
第2学年は、年間通して週1回
第3学年は、前期週1回、後期週2回
なお、学校の臨時休業日や夏期休業・冬季休業の一定期間は実施しない。

(5) 指導組織

① 指導組織

- ア コーディネーター
全体の運営者として指導に係る管理・運営を行う。
- イ 学習指導員リーダー
コーディネーターの指示を受けて指導内容を検討し、各学習指導員の指導生徒

への配置や効果的な学習の場づくりを工夫し周知する。

生徒の学習指導を担当する。

ウ 学習指導員

生徒の学習指導を担当する。

② 指導上の留意点

ア 学習指導は個別指導を基本にし、生徒の学習意識を勘案して週1回（2年生）から始め、週2回（3年生）へと移行し学力の向上を図る。

数学を中心に学校の進度に捉われずに生徒の学力状況に合わせて進める。

ただし、定期テスト前は他教科についても対策学習を進める。

イ コーディネーターは、必要に応じて各生徒と面談し指導を行う。

・6～7月までに1回

・10月に1回

（2学期制のため1学期の成績が出る頃）

・12月からは適宜

（進学指導の面接練習ため）

ウ バス利用の生徒には、夜間の安全に配慮して帰宅時にバス停まで引率する。

エ コーディネーターと学習指導員は、本事業をよく理解し、学習時や相談時の生徒の声には十分に配慮して対応するため実施後には指導法等の研究会を行う。

オ その他、必要な対応が生じたときコーディネーターが中心となり対応する。

(6) 事業連携

① 本事業の市担当課

生徒募集は、市生活福祉課が行っている。課のケースワーカーが担当世帯に前年度から声をかけており、4月の面談日設定等細かい調整・配慮がなされている。

さらに、中学校校長会・教頭研究会における説明とともに学校を介した生徒募集も行っており連携もスムーズである。

② 市担当課と市子ども家庭課の連携

市生活福祉課は生活保護に関する業務を

担当しているため、生活保護家庭以外の生活困窮世帯へのアプローチは難しいのが実情であった。

学校からの申し出も若干名にとどまっていたため、子ども家庭課児童手当担当との連携が始められた。8月にひとり親家庭の児童扶養手当の現況届を保護者が申請する来庁機会があるため、支給範囲を見て、「学習サポート」募集チラシを渡している。このことで、今年度は10人の追加応募があり大きな成果となっている。

③ コーディネーターと各学校との連携

コーディネーターは「学校教育等連携員」として教育委員会や生徒の在籍校との連携を担っており、このことは教育委員会・各学校長ともに理解されている。

4月の各保護者・生徒との面談後、教育委員会に出向き、確定した生徒について学校別に報告している。

そのとき、各中学校の修学旅行・運動会・文化祭等の行事予定日、定期テスト予定日の一覧表を提供していただいております、スムーズな運営に役立っている。

各校には、学期単位で生徒の出席状況を報告しているが、不登校生徒は校長判断で出席扱いにもなることから大切なことと捉えている。

これらについては、3-(4)-②に示した「**参加**申請書にある了承事項」の個人情報の共有化について生徒・保護者ともに了承していることから進められることでもある。

連携内容は、指導に必要と感じた内容についてコーディネーターから学習指導員にも知らせることで指導環境の改善に結びつけている。

4 学生ボランティアの活動

(1) 学生ボランティア（学習指導員）の指導日の流れ（以下：学習指導員という）

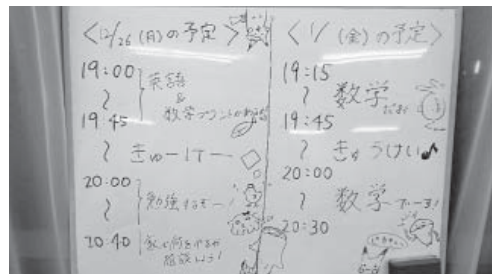
- ・ 18:30 集合(教室はJR平塚駅から徒歩4分)
大学授業で遅刻は可(事前連絡必須)
会場準備(机の配置・指導資料)
- ・ 18:40 コーディネーターとの打合せ
各生徒の個別状況や学校行事等、時期に応じた配慮内容、欠席生徒等指導上の留意事項の伝達をする。
- ・ 18:45 学習指導員リーダー
1～2年携わってきた学習指導員の中から予め当日担当としてコーディネーターが決め、当日の学習指導員配置(個別指導のため、原則固定)、必要な事項を説明させている。
- ・ 18:55 学習指導員は個別指導の準備。
- ・ 19:00 3年生は9月からこの時間に開始。

来室生徒個々に全員で「こんばんは」の声かけをする。

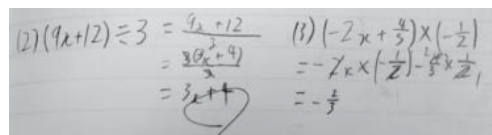
生徒がいつもの席に着いたら「今日もお願いします。」と指導員のほうから声かけをする。

その後は、「〇〇行事があると言っていました、どうでした？」など、和やかな雰囲気を作りながら丁寧言葉を基本にして学習に入る。

【学年によって開始時間を調整】



【各生徒への配布ノート】



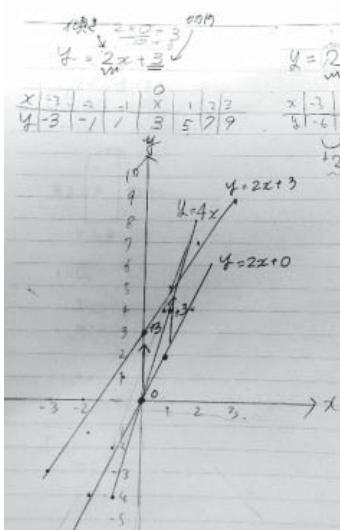
⑤ ものの数 x が

$$\begin{aligned} (15) \quad & 150x + 120(15-x) + 200 = 2210 \\ & 150x + 1800 - 120x + 200 = 2210 \\ & 150x - 120x = 2210 - 1800 - 200 \\ & 30x = 210 \\ & x = 7 \text{ (個)} \\ (16) \quad & 15 - 7 = 8 \text{ (個)} \end{aligned}$$

個別対応の利点を生かしながら進めている。

特に、数学については毎回行っているが、学校の授業で現在習っている内容を行う予習や復習で効果が上がる生徒と、基礎基本に立ち返ってじっくり力をつけたほうが良い生徒がいる。

学習サポートに来室する生徒には、前者が少なく、後者がほとんどである。生徒たちにはこの点をよく説明して学習に入るようにしている。



① Thursday ② morning ③ How many students ④ 10/20
⑤ September ⑥ How many times ⑦ 11/20 ⑧ 10/20
⑨ February ⑩ 11/20 ⑪ tomorrow ⑫ 10/20
⑬ Monday ⑭ 11/20 ⑮ yesterday ⑯ 10/20
⑰ Sunday ⑱ What ⑲ 11/20 ⑳ 10/20
⑳ May ⑳ 11/20 ㉑ 10/20
㉒ Friday ㉓ 11/20 ㉔ 10/20
㉕ March ㉖ teacher ㉗ 11/20 ㉘ 10/20
㉙ October ㉚ 11/20 ㉛ 10/20
㉜ Tuesday ㉝ 11/20 ㉞ 10/20

総じて学力は高いとは言えない生徒が多く、数学は苦手と答える。

毎年、2人程度がほとんど登校できていない不登校の生徒もいるが、半数は毎週来室できる。

- ・ 19:40 指導に余裕のある学生が自ら進んで休憩時の準備をする。



社会福祉法人提供のパン等・飲み物、皿・コップ等の準備（生徒・指導者分）をする。

【生徒はもちろん、指導員もうれしい】

- ・ 19:50 リーダー「休憩してください。」

あくまでも個別指導者の学生（学習指導）と生徒とのコミュニケーションの場としている。

コーディネーターからは、学習指導員に対して生活困窮世帯生徒との会話であることを十分に認識して配慮すること（学生：〇〇に行ってきた楽しかったなどお金が絡む話など）を常に言っている。

「今日は、何を話題にしようか。」と考える学習指導員もいる。



【休憩時後、学習再開時】

- ・ 20:05 リーダー「休憩、終わりです。後半の学習を始めてください。」

終了時間近くには家庭学習の状況等を把

握して“持ち帰りノート”に次回までにできることを相談して記入させる。

- ・20:40 コーディネーターから、参加生徒に話をする。

・時期に応じた話

（例えば、「定期テスト前は『7回読み勉強法』について説明し、次の来室時に実践させる。」と話す。）

- ・20:45 リーダー「姿勢、正して！
「指導員の先生に挨拶します。お互いに礼、ありがとうございました。」
「パンが余りました。持って帰ってください！」
「指導員の〇〇先生〇〇先生、バス停まで送る担当です。お願いします。」
- ・20:46 指導員（バス停担当を除く）で片付け

清掃・コピー機と指導資料・机の配置、
食器洗いなど、自らが片付け仕事を見つけることとしている。

- ・20:55 指導報告書の作成

学習サポート（子ども健全育成推進事業）指導報告書	
（中2）	中3） No. <input type="text"/> 生徒氏名 <input type="text"/>
指導日 6月2日（金）	指導者 <input type="text"/>
＜指導教科等の内容＞	＜生徒の様子・留意点＞
数学：文字式の計算 （比）・反比例	今も数学学習で苦戦しているみたいで、改善 を促すように促したけれど、 「まだ問題を解くことが出来なくて困って」そう話して くれた。比、反比例、3次関数、反比例、そして 3次関数の応用問題など、とても大変な問題に なった。少しの時間が経たないと次が分からない で嫌らしいと、黙っていた。
次期 緑こ	
指導日 6月9日（金）	指導者 <input type="text"/>
＜指導教科等の内容＞	＜生徒の様子・留意点＞
数学：連立方程式	昨日の授業で「連立方程式」について、「2つと 3つと」の概念が分かっていないと、 「2つと3つと」を区別することが出来ていない と、言っていた。授業終了後、週明けには10分 間の計算テストがあったので、 「2つと3つと」を区別することが出来ていない と、言っていた。2つと3つとを区別することが出来 ていないと、言っていた。2つと3つとを区別 することが出来ていないと、言っていた。
次期 千代子	

[illegible]

「学習指導者の出席シフト表」の各自の欄に参加可能日を記入。

- ・ 21:05 指導上の課題等があれば、共有化するため話し合う（年度初めは多い）。

また、大学で教職課程を取っている学生が多いので、教員採用対策のための勉強会もこの時間を利用して行う。

就活生には、相互で話し合える資料を提供し、内定者には参考になる話題を提供してもらっている。

- 21:30 解散

(2) 「学習サポート」のイベント

⇒ 子ども食堂 意識

事業実施から3年間は、他市の事業を参考に交流事業として年1回実施した。

- ① 平成25～27年度 交流事業



餅つき



うどん作り



交流事業は、餅つき体験・きな粉餅等の加工・手作りうどん・ゲーム等を行ってきた。当日は、市担当課長はじめ、課長代理・担当職員の手伝いがありました。

② 平成28年度から食事提供事業へ転換

交流事業は、生徒が受験態勢に入ろうとする11月下旬に実施し、指導員とのコミュニケーションも進み、皆で「受験を乗り切ろう！」との気持ちの切り替えに役立てることができた。

しかし、『子ども食堂』のように食事提供がほしいと願っている生徒がいるとしたら、少しでも対応できるとよいと考え、イベント効果はあるが変更に踏み切った。

毎回の休憩時の提供食に加えて、複数回カレーライス・豚汁その他を学習指導員が準備して提供した。(交流事業での「皆で受験を乗り切ろう！」との気持ちの切り替えは事業変更しても生かしていく。)



受験前、学習指導員からプレゼント！（右の写真）

他の学習指導員から

正月、神社の『合格祈願の鉛筆』を生徒に。



5 学生ボランティア（学習指導員）による学習指導

- ・週1回のとき……………個別指導で数学中心（個に応じた内容）
 - ・週2回（3年生後期）…個別指導で数学中心、全体指導で小テスト（国語・社会・理科・英語）
- 【手作り教材】部分紹介……両面刷りで正解は裏面印刷（紙質が薄いので薄色印字）

教科書・市販の教材，そして手作り教材とその場に応じてこまめに手持ち教材を作り直して解かせるなどの工夫した指導を心掛けている。

Lesson6 単語

Part1

man	man(男性)の複数形
dark	暗い
side	面,側面
What about it?	それはどういふことですか
Chinese	中国語
Spain	スペイン
France	フランス
French	フランス語
Germany	ドイツ

young 若い

candle ろうそく

smoke 煙

Lesson 7 単語

Part1

abroad	外国へ
should	～すべきである
both	両方
I'd	I wouldの略
aren't	are notの略
would like to	～したいと思う
Maria	マリア(女性)
the Philippines	フィリピン

cause ～にさせる

cough 咳をする

Malawi マラウイ

southeastern 南東の

理科中1 <身の回りの物質> 名前

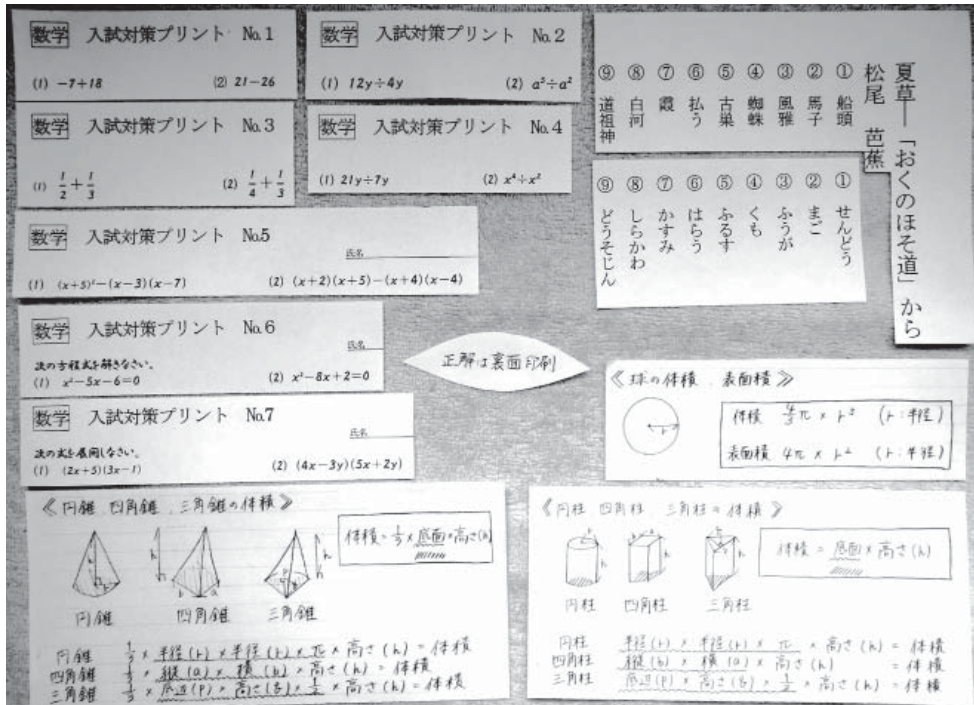
1. 次にあげるものは、A物体 とB物質のどちらについた名前か。それぞれについて適当なほうを選び、A, Bの記号を()に答えよ。

アルミはく() おり紙() 食くぎ() ガラス()
 金() 50円玉() 砂糖() スチールウール()
 銅() ボールペン() ポリエチレン() 水()

2. 次の(1)～(5)にあける性質のうち、ほとんどの金属に共通するものには○を。そうでないものには×を答えよ。

中2理科 一問一答！ 名前

(1) デンプン、タンパク質、脂質は消化されるとそれぞれ何という物質になるか。
 (2) デンプンを消化する消化液をすべて書きなさい。
 (3) タンパク質を消化する消化液をすべて書きなさい。
 (4) 脂質を消化する消化液をすべて書きなさい。
 (5) 消化酵素を含まない消化液は何か。
 (6) (5)で答えた消化液はどこでつくられるのか。
 (7) (5)で答えた消化液はどのようなはたらきをするのか。



6 休憩時間と学生ボランティア (学習指導員)

現代の若者たちを取り巻く家庭の問題として、低所得・ひとり親・家庭崩壊・虐待・精神疾患・養育能力などが絡み合って『貧困』・『孤立化』が進んでいる。

- ・来室しやすい雰囲気
- ・気軽に話せる
- ・聞いてもらえる安心感
- ・心の安定になる声かけ
- ・参考になる話
- ・一定の節度

など、心のオアシスともなる場の設定が大切であることから休憩時間を大切にしている。

一例になるが、比較的小となしい参加生徒から休憩時に次のような訴えが指導員にあった。

「クラス替えて仲良しだった友達と別々になって不安。今、友達が誰もいない。さらに、小学校でいじめられた子と同じ学級になってしまった。今のところいじめは発生していないが。」

終了後、コーディネーターに報告がある。

コーディネーターは、翌日学校長に連絡し、生徒の不安の解消に努めるよう依頼した。市教育委員会・各学校と連携体制にあるので、望ましい対応に結びつけられると感じている。

学習サポート登録の生徒が休みがちになったとき、同じ学校の参加生徒に聞いたところ、その生徒の交流関係を話してもらえ、問題行動でもあるため学校長に知られる。学校はある程度は承知していたが、新情報として承知した。母親の養育能力等、情報の交換ができ以後の対応に生かすことができた。

10～15分程度の休憩時間だが、学習指導員とのコミュニケーションは学習指導とは別に重要項目と位置付けている。

7 参加生徒と学生ボランティア (学習指導員)

(1) 参加生徒数と学習指導員数

参加生徒の中には、兄弟から聞いて参加を決めた生徒もいる。

	生徒数		コーディネーター	学生ボランティア (学習指導員数)				
	3年生	2年生		合計	神奈川大学			他大学
					理学部	経営学部	人間科学部	
平成25年度(2013)	11		1	11	5		1	5
平成26年度(2014)	15		1	16	8			8
平成27年度(2015)	13		1	19	13	1		5
平成28年度(2016)	22	9	1	28	22	1		5
平成29年度(2017)	13	18	1	30	20	4	3	3

(2) 今年度までの指導運営

- ① 平成25年5月に市から委託を受けて始め、教室は社会福祉法人の放課後児童クラブ(学童)施設を利用している。

初年度の学習指導員は、当学童の学生指導員へ依頼し9人で始めた。途中2人増え1人減り、2月は10人であった。

学生の都合を尊重しているので、登録数イコール毎回の指導者とは限らない。

- ② 開設1年目と2年目は、学習指導員の指導可能日と生徒数との関係から週2回に分散して開催した。
- ③ 平成27年度は、学習指導員の指導可能日も安定してきたため10月から週2回の開設とした。
- ④ 平成28年度は、中学3年生は前年度と同様に10月から週2回とし、2年生を新たに12月から実施した。
- ⑤ 平成29年度は、

4月…面談・申請(生徒・保護者・コーディネーター・市担当課職員)
打合せ・準備(コーディネーターと学生の学習指導員)

5月…「学習サポート」事業の開始

8月…休講(学習指導員は、平塚市出身3人で、他の学生は帰郷するため)

9月から…3年生は月曜日・水曜日実施
2年生は金曜日実施

年末・年始…休み

2月中旬まで

…3年生は公立高校の入学試験まで

2年生は期末テストまで

(3) 学習指導員の学年別・教職選択等について

- ① 学年別の学習指導員数(H29.9現在)

4年	3年	2年	1年
12	7	9	2

学習指導員リーダーは4年生が担当

- ② 教員志望で教職課程受講の学習指導員

H25	H26	H27	H28	H29
6	8	8	10	20

今年度は、2年生が多く進路変更が出てくるのは、これからであろう。

- ③ 教員に採用されている学習指導員経験者

平塚市立小学校 正規教員 1人

二宮町立小学校 正規教員 1人

平塚市立中学校 正規教員 2人(神大卒)

平塚市立中学校 非常勤 1人(神大卒)

8 参加生徒・保護者等の声

(1) 年度末の生徒アンケートの結果(抜粋)

毎年、年明けにアンケート調査をしている。生徒からは良好な回答をもらっている。

Q 1 学習サポートに参加して、率直な感想聞かせてください。

- ・楽しいです。
- ・最初は、家庭の事情もあり不安でしたが、来てよかったです。

Q 2 家庭での勉強と比べてどうですか。

- ・分からないことがあったら、先生に聞けることです。
- ・学力に合わせてくれてよかったです。

Q 3 大学生の先生はどうでしたか

- ・おもしろくて、優しいです。
- ・休憩のときの話題が楽しかった。
- ・ていねいな教え方でよかったです。

Q 4 参加前と比べて、勉強への考えは。

- ・勉強が楽しくできたことです。
- ・じっくり取り組むことの大切さが分かりました。

- Q 5 これからやってほしいことは何ですか
・面接練習・予想問題など
- Q 6 学校や勉強は楽しくなりましたか
・楽しくなりました。
・学校の授業の受け方が変わった。
- Q 7 高校生になることについて、楽しみにしていることや不安なことはありますか
・高校生活がどんなふうになるのかが楽しみで、不安なことは勉強がすごく難しくなることです。
・やりたいことがあるので、楽しみ。
- Q 8 参加してよかったですか
・はい、よかったです。
・よかった。もう少しで終わるのが残念です。

(2) 保護者・生徒からの手紙・メール

学習サポート
石井先生、その他の先生方へ

■■■■の母です。
本年度は大変お世話になり、ありがとうございます。末娘は■■■■ではありますが、日本へ来て、右も左も分からず、いなか、学習のみならず、多くの事を学ばせて頂きました。おかげ様で、本人の将来に対する欲も出て来ましたが、もう間もなく講習も終了すると思いますが、皆様から教えていただいた事が、発揮できる様、当日に備えたいと思っております。

短文ではございますが、お礼まで...。
本当にありがとうございます。

いつも勉強のアドバイスや試験への励みになる言葉など色々言っていたらとても嬉しかったです。
お陰様で無事■■■■に入学することができました。
いまでも本当にありがとうございます。

事情により、生徒の祖母と連絡を取ってきた。その方からのメールです。

「せんせい、〇〇〇の祖母です。おかげ様で△△高校合格しました。先生方のおかげです。感謝です。〇〇〇には一生の内で初めての感動なので入学後は先生方の教えを思い出し、高校生活を楽しみ、卒業できるよう頑張れと言いました。」

「2月まで勉強を見ていただいた〇〇〇の祖母です。今日高校の3者面談で中間テストの成績を見せてもらいびっくり。国語と英語がクラス◎位、総合クラス◎位で期末もがんばれと力づけていただきました。寒い中一生懸命学習サポートに通っていました。先生方のお陰です。難しくなるけど頑張ると自信がわいてきたようです。」

最近、手紙等で感謝の意を表すことが少なくなっているが、うれしさいっぱいこれらの内容は、学習指導員・市担当課にも伝えた。

9 学習指導員の声

(1) 学習指導員による年度末反省（抜粋）

(平成29年2月)

- 新しく入って来た学習指導員に雑務的内容をしっかり教えるということを行うべき。私がいけない期間でシステムが崩れていた。
- 忙しくて来れなかった際に、「何を行ったのか」という情報をしっかり報告書に記入しておくべき。
- 今期初めてだったので一人の生徒Kを中心に見た。戸惑った。あまりしゃべらない子で自分の意見ははっきり言えず、学力も低く出会ったことのない子だった。

話題を振ってコミュニケーションしていくと笑顔が見られるようになった。

(他の個別の対応等は省略)

学習指導員の配置・分担について

- 今年度は、指導班(A指導員が欠席のときはB指導員がC生徒を担当するなどの指導員

のグループ化)を作成したシステムが機能していてよかった。汎用性, 対応力, 柔軟性ができた。

- 指導班システムはよかったが, 数人でのグループなので, 全てがうまくはいかずその時々で臨時調整で入れ替えをした。
- 入れ替えると情報の共有が行えない。入れ替えが何度かあった印象。できるだけ固定して逐次メンバーを入れていくシステムにしていくとよいと思う。
- グループは来年度も必要で, 短時間でも情報交換が大切だ。
- 今年度は, 特に年明けの大事な時期に指導員の出席可能者が少なくなり, 頻繁に入れ替えしたため, 情報共有がしづらくなっていた。コーディネーターの面談練習などで内面のフォローもしていただいていたので, 個に応じた学習内容については報告書の申し送り欄を見てから指導できたので何とか凌ぐことができたと思う。
- 3年生は, 不登校, 定時制受検生徒が例年より多かった。特徴的なカラーを持つ子が多かった。それに対して, 2年生は比較的落ち着いたタイプの生徒が多く, 不登校気味の生徒が一人で指導はしやすかった。
- 今年は指導員が多かった。年度末を除けば, 個別指導がしっかりできた。
基本的な指導方針は, 示していただいているので具体的な対応については今年のシステムに加えてその年その年で対応出来ればよいと思う。
- 昨年までより個別指導が多くできた(登録指導員が多かったためであるが)ので, 今後これもこれが望ましい。
- 教材の面では, 全体指導として行う資料がまだ少ない。
- 昨年度までは, 同じ指導員が頻繁に来ていて指導についての話し合いがスムーズに進み, 互いに刺激しあえた。

今年度は, 昨年度に比べ指導員の出席の関

係で入れ替わることがやや多くばたばたしたときがあった。

- 数学の教科書数が足りなかったので増やしてほしい。
- 年度スタート期の「漢字」と「数学」の時間配分に不安を感じた。今年度の生徒の場合, 早めに「百マス計算レベル」の計算能力を行ったほうがよかった。
- 2年生は, 12月から始めたが来年度は3年生と同様に5月から始めると聞いています。今まで以上に各学年の教科書を必要とすると思われる。
- 数学がもう少し必要, 英語の文法, 理科, 歴史, 時差の演習会などの教材も充実しておく受験勉強期に助かります。
- 3年生の「学習サポート」は週2回。ここでどれだけの内容に触れるか。絞らないと効果が薄くなってしまう。家庭学習の習慣化を進めなければならないと思う。

定期テスト対策

- 範囲表を見せてもらい, 十分な時間を取って家庭学習について細かなアドバイスをしたことはよかった。
- 学校配布教材の利用を積極的にしたい。
- 単語テストに関しては, 事前に宿題を課し, 数分でテストを行った。
- 漢字練習も自宅で学習させて, 学習サポートに来た際にテストを行う。
(以前作成されたファイルを活用すべき)
- 生徒の学習進度表を作成したい。
(学校での学習状況が見えるようにする)
- 継続的に小テストを行う。テストの時期になったら学校に合わせた指導をしたい。
- 英語の勉強に関しては, 音読, 文章の訳を行ってけるとよい。→音読しやすい環境を踏まえて。
- テスト予定日に合わせて, 「本人が対策したい2~3教科」に絞って教科書を持ってきてもらうなどの工夫をしたい。

- 科目ごとに指導員を対応させるやり方(学校のように教科担任制)はできないか。
- 社会なら暗記用教材を用いたいが、出題が教科書中心か、プリント主体かによって指導は変えなければならない。
- テストの勉強計画を生徒自身に組んでもらえるとよい。来室時、何を学習するかが明確になる。

高校受験勉強期(12月から)

- 家庭学習しやすいように購入した市販教材の貸し出しをしたがたいへん良かった。
- 使いやすい資料を用意したい。中1・中2の英語の復習ができる教材の用意。
- 今年度も全体でのミニ漢字テストの時間をとったが、一部の生徒には無駄だったという声もあった。個人対応とするか協議していくべき。

コーディネーターから

- 生徒の持ち物は筆記用具だけであったが、“持ち帰りノート”を新たに作りましょう。(何をやるかを明確化・家庭学習の推進)
- 今年度の家庭学習の記入欄(個人ファイル)は、“持ち帰りノート”に記入するなど、指導員と生徒と話し合いながら記入していけると来年度も生かせるはず。
- 指導者側が何を意図して指導しているかを明確にし、分かってもらうことは大事。
- 家庭学習の課題を課す際には、日にちを明確に指定すると良い。
- 生活保護家庭だけの支援ではない。
日々の生活、例えばひとり親が一生懸命働いていても困窮から抜け出せず、食費も確保できない日があるなど、来室生徒の中にもその状況の家庭があるかもしれないと捉えておきたい。
- 私たちにできることは、生活状況が聞けたときには、ケースによっては市担当課に伝えて解決の道を探ってもらったり、学校との連

携を進めること。

(2) 学習指導員からのコメント

- 「学習サポート」では、大変貴重な経験をさせていただいていると感じています。本ボランティアに携わるまでは、恥ずかしながら貧困家庭について何も知らずにいました。参加したことで教育現場や貧困家庭の生徒についての理解が進み、また、活動を通して相手を理解し尊重することがコミュニケーションの第一歩だと学ぶことができ、自身の成長にも繋がりました。
- 就職活動でもなかなか耳にしない話題であるようで、面接官の方にも大変興味を持って話を聞いていただきました。活動を通して得たことが就職活動でもプラスになったと思います。
- 大学では、教職課程を取っているが、学習サポートの活動を通して、実際の勉強を教えることの難しさを経験できていること。また、貧困家庭の子供たちと関わることでテレビ等では分からなかった問題点などにも気づくことができたことはよかったと思います。
- 教員志望者として生徒と関わることで、困窮家庭の生徒の実態を知ることができたこと、知った上での対応などを学べたことがとても良かったです。
教員採用試験面接でも聞かれたので、とてもいい経験をさせていただいているなと感じました。
教員志望者にはどんどん参加してもらいたいと思います。
- 定期的に生徒と関わることで現状を知り、個々への接し方の勉強になり、自ら動く力の向上にもなりました。
- 生徒との関わり方を学べたこと、先生同士の関わりと様々な教え方を知ることができたことは有意義でした。先生は一人で指導するイメージがありましたが、周りの先生と協力し情報や教え方を共有しながらやっていくこ

とが大切だといえることができました。

また、生徒からも学ぶこともあったのでやってよかったと思っています。

10 まとめ

(1) 今後の「学習サポート」の在り方

今後、学習支援が必要な生徒をどのような枠組みで捉えて「学習サポート」を進めていくかの方向性は次の調査結果から推察することができることが分かった。

平成28年10月～11月に北海道で行われた全道実態調査「北海道子どもの実態調査」が平成29年6月にまとめられた。

これによると、年収100万円以上200万円未満世帯の約4割の子どもが学校の授業が「わからない」、3割が進学は「高校まで」と回答している。親の経済状況が子どもの学習習熟度や進学に影響していることが浮き彫りとなった。

ここでの「わからない」を当学習サポートの生徒で当てはめてみると、今日の授業が「わからない」のではなく、例えば3年生でも数学の掛け算・分数の間違えがあったり、中学1年生で習うマイナスの入った計算が解けないなど、一般の人が想像する以上に、根本的な内容が「わからない」を多分に含んでいると思われる。

したがって、子どもの貧困の“見える化”は細かな対応のためのデータとしての価値はあるが、こと学習支援の方策として今行うべきことは、低所得世帯の生徒に対してまず進めていくことが大切であると感じている。

また、全道調査結果の中で、「一番ほっとできる場所は、「自分の家」80.5%と答える一方で「ない」が5.4%ある。この「ない」が生活困窮世帯の子どもであるならば、学習支援の場でのコミュニケーションは大切な場ということになる。

(2) 望まれる連携体制

市担当課は、生活保護を担当している課であ

るが「学習サポート」担当を今年度6人配置とし、毎回の指導日には必ず2～3人が来室し、生徒の様子・欠席の連絡があったか、今後の対応法など意見交換等ができ、有意義に進んでいる。

また、生徒個々の「報告書」は、毎月コピーして市担当課に報告している。これらは、担当ケースワーカーにも供覧され情報の共有化が図られている。

「学校教育等連携員」としてコーディネーターは、教育委員会・学校との連携をさらに充実することが期待される。

いずれにしても「生活困窮者自立支援法」・「子どもの貧困対策の推進に関する法律」・「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」（不登校児童生徒の学校外で支援等の教育機会確保法）等を十分に理解し事業を進める必要がある。

(3) まとめ

子どもの貧困対策における学生のボランティア活動は、参加生徒にとっては普段会話することがない大学生との交流（学習指導と休憩の会話）が有意義であり、学生にとっても社会で問題となっていることに触れることで大きな意義を見出してくれており、貴重な経験として今後生かされていくと感じている。

来室する生徒は、家庭の経済状況の中で学習支援に通っていることを認識しているので、今後もこのことを十分に承知して進めていきたい。

最後に、学生ボランティア募集においては湘南ひらつかキャンパスのボランティア担当の先生にご協力いただいていることに感謝申し上げます。

【注】

写真内の『学習サポート』参加生徒についてはマスキングして個人情報の保護に努めている。なお、学習指導員の表出については了解済みである。

【参考文献】

- (1) 厚生労働省
平成28年 国民生活基礎調査の概況
- (2) 文部科学省
平成27年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」結果（速報値）
- (3) 厚生労働省
生活困窮者自立支援制度の実施状況調査 集計結果（平成27・28年度）
- (4) 平成29年度 平塚市子ども健全育成推進事業（学習サポート）実施要領
- (5) さいたまユースサポートネット
学習支援事業の運営実践事例集 報告書